

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ		
所在地	島根県江津市敬川町1230番地1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	平成27年11月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3290600034-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団		
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームモモは行動計画にもある“笑顔”“家族とのつながり”を大切に家庭的な雰囲気の中で利用者様が安心・安全に生活できるよう日々の暮らしのお手伝いをさせて頂いています。今年度は常に利用者目線に立ち声や思いを“聴く”事を目標に掲げ、利用者本人の喜びや自信、笑顔に繋がるケアを目指しています。また、認知症介護実践者研修を始めリーダー研修、指導者研修等職員約7割が研修を修了し認知症についての専門的知識を持ってサービスを提供するよう心がけ、キャラバンメイト活動などの地域貢献や地域との交流も盛んに行い、開かれた施設づくりに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所理念は児童書の「モモ」を基に作られており、物語のテーマである「かけがえのない時間」を自分らしく過ごせるよう取り組んでいる。利用者個々にやりたいことや生活習慣が違う中、無理に集団の中になじむよう働きかけるのではなく、その人らしく暮らせるよう意向を聞いたり、センター方式を取り入れて本人理解を深めている。
外出欲求が強い利用者、外出にあまり積極的ではない利用者、歌などの催しが好きな利用者、人の和の中に入るのが好きではない利用者など様々な利用者の思いをくみとり、個別に対応している。個別に対応するため、職員個々の意識の共有が不可欠であり、会議の時間には利用者のニーズについて多く話し合われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づきグループホームの行動計画を作成し研修や会議等で皆で確認し合い実践に繋げている	理念を掲示したり、業務日誌に綴じて共有している。日常の中で職員が意識しやすいよう毎年テーマを決めて取り組み、利用者主体のケアを行っている。	理念の共有は十分行われているがさらに実践に繋がるよう取組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域で行われる桜祭りや文化祭、コミュニティーの集まり等に声をかけて下さり参加させて頂いている。また、施設行事にはボランティアとして積極的にかかわって下さったりして交流を密にしている	地域行事に職員が参加し、関係性が築かれている。地域の方が利用者を尋ねてきたり、地元の婦人会が訪れてのボランティア活動も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトになっている職員が学校やコミュニティー、市役所等へ行き、研修会を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回、運営推進会議を行いその場で報告を行っている。また、頂いた意見に耳を傾けサービス向上に繋げている	開催日を固定し定期的な開催が定着している。事業所の状況を理解してもらい、参加者と事業所の情報交換の場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進委員のメンバーになって頂いているので会議等で意見をいただいたりして協力関係を構築している	運営推進会議には、毎回地域包括支援センターからの出席があり、介護保険制度について説明してもらうこともあり、協力体制は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり定期的に会議や研修の場において対策等を周知すると共に、事前に意識調査を行い、よりよいケアの実現に向けた取り組みをしている。特に、転倒リスクの高い利用者や帰宅願望の強い利用者に対しては見守りを重視し、援助を行っている。	転倒があればヒヤリハット報告書を作成し、対応策を考え、職員で共有している。外出欲求が強い利用者にも妨げるのではなく一緒に歩いていき、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	危機管理委員会が中心となり”不適切ケア防止目標”を掲げ全職員に伝達、月末にはアンケートにて自身の振り返りをする事でより良いケアの実現に向けた取り組みをしているまた、園内研修や外部研修に参加し職員が学び、気付ける機会が持てるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員の知識として研修等で学び、他の職員に伝達する事で必要性をしっかりと把握している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に文書・口頭にて時間をかけて説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の面会で近況報告を行い、その際要望等は聞くようにしている。上司にも報告をし、意見があれば話し合いにて改善を図っている	家族の面会は頻回で、訪問時に暮らしぶりを拝見され、疑問に思われることがあればその場で応じ、理解を得ている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや全体職員会議にて職員からの意見を聞き代表者会議にて改善すべき点など話し合いを行っている	日頃から職員の意見を運営に取り入れている。毎月の会議や申し送り時などで職員の意見を募るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員との面談や自己申告制度を実施し職員が働きやすい職場環境作りに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望も取り入れ外部研修に参加したり、会議等で伝達する事で職員1人1人が知識を高めケア向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や部会等で他施設の職員と情報交換を行いより良いケアに繋がるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	職員一人一人がゆっくり関わりを持つことにより関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったこと悩み事等、家族が話しやすい雰囲気をつくり安心して頂けるようしっかりと思いを受け止め信頼関係を築くよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族様からの要望に耳を傾け、現在の状態に合った支援を提供できるよう努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する、される側という考えではなく共に助け合って出来る事は本人にして頂き、出来ない事は一緒に行えるよう努めている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人とご家族との関係を大切にし連絡を取り合い、受診介助のお願いや行事等への参加も呼びかけている。家族との絆が途切れないよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方々が面会に来られたり、行事に参加したりまた、家族との外出、外泊等自由に行って頂いている	入所時のアセスメントで馴染みの場所を把握している。手紙のやりとりを継続されている利用者や馴染みの美容院へ通われ、関係の継続を図られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが持てるよう共同作業をしたり、時には違う場所での食事や外出、レクを通じて交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援を求められる方に対しては出来る限り応じていきたいと思う		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来るだけ個別対応の時間を取りながら雑談の中でも思いや希望を聞けるよう工夫している。困難な方についてはしぐさや表情から思いをくみ取るよう努力している	洗濯を毎日自分で行いたい利用者や外出したい利用者など一人ひとりのやりたいことが実現するよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながらご本人、ご家族からお話を聞かせて頂く機会を持ち把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりや様子観察などから状態を見極めるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回のミーティングにてケアの実践と振り返りを行っている。ミーティングでは職員が意見を出し合い利用者の声や現状に即した計画を作成している	家族や利用者の思いを組み入れた計画を作成している。介護計画の説明時に利用者が同席して説明をすることもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録や申し送りノートに細かい記録を残した、口頭でも申し送りをしながら情報共有している。それらを基に介護計画の見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の意向になるべく添えるよう柔軟な対応を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会や近隣住民とも交流が増えた事で協力体制が出来てきているように思う		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や家族の意向に沿って対応している。モモでは2週間に1度の協力医往診にて状態の報告を行っている。また、家族の協力や職員の付き添いにて希望の病院受診もしている	入所の時になじみの医師をかかりつけ医にできることを説明し、家族となじみの医院に通院している利用者もいる。協力医の往診もあり、適切な医療が受けられるよう支えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者のちょっとした変化にも気付く眼を持ち必ず看護師に報告・連絡・相談を行うことを徹底している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族や病院関係者と密に情報交換や相談を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族様と十分に話し合い事業所で出来ることは支援していきたい。利用者の重度化も進んできて職員が看とりについて考える時間が必要となってきている	事業所で出来る範囲と出来ない範囲を説明している。食事が口から摂取でき、事業所で入浴が行える間はしっかりと生活を支えていく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急処置については毎年繰り返し研修を行い全職員が参加している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼・夜とそれぞれのパターンを想定し避難訓練を実施し緊急時に対応できるようにしている。また、地域の方々にも運営推進会議を通じて協力要請を行っている	定期的な避難訓練を実施している。地震や水害の時には無理に非難せず、事業所で待機できるよう備蓄を用意し、職員に周知している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年長者としての敬意を忘れないように言葉使いや声のトーンに気をつけて声掛けを行っている	不適切ケアについて意識するように目標を掲げ、毎月集計を行っている。個室の戸を開けるときはノックや声掛けもプライバシーと意識して行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の関わりの中でその方の思いなどをくみ取り支援に反映させている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制的な声掛けは行わず、何かある時は声掛けや提案をし本人が自己決定し易いようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着るものを選んだり声掛けを行ったりなるべく自身でおしゃれができるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行い食べたいものを一緒に作ったり片づけを行っている	きざみ食やとろみ食など利用者が食べやすい形状を考え、食材も旬のものや地元の物などこだわりを持って提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人に合わせた食事形態をきちんと把握し提供している。水分や食事についてはチェック表にて管理を行ない健康管理に繋げている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声掛け、義歯洗浄管理を行っている また、磨き残しなどチェック時には介助を行ない、清潔を保てるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握した上で出来るだけトイレでの排泄が行えるよう声掛けや誘導を行っている	個別の排泄状況を把握し、トイレでの排泄を支援している。ユニット会議で一人ひとりにあった排泄支援が行えるよう話しあっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し排便のない時には冷たい飲み物やヨーグルト等でまた、運動等取り入れる事で排便を促しなるべく下剤に頼らない工夫をしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	好きな入浴の時間帯に声掛けを行ったりしてご本人の習慣になるべく浴うように支援している	午前と午後の入浴が可能である。毎日入浴する利用者もあり、利用者個々の思いに添って入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	在宅時の習慣に沿った休息を自由にとって頂けるように努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人情報ファイルに薬情報をファイルしまた、変更があった時は申し送りを行い情報を共有している。服薬時には読み上げ確認を行い間違いのないよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	手作業や歌等提供したり毎日決まった役割をお願いし一緒に行っている 外出等での気分転換も常に図れるよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事やちょっとした買い出し等声掛けで一緒に出かけたり、外散歩やドライブを行っている。また、地域の付き合いなどご本人が希望されれば送迎を行い繋がりが切れないよう支援している。家族の方々にも協力して頂き外出や外泊の支援を行っている	日常的に買い物や散歩に出かけている。テラスや庭に出て日光浴する機会もあり、戸外に出かける機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金として管理させて頂いているが、外出される際は本人の買いたいものを自由に購入できるよう柔軟に対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されれば電話の取り次ぎを行っている。手紙などは本人にお渡しし居室に飾ったりしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節感のある壁画や小物を一緒に作っている。また、毎年グリーンカーテンを植えたり室温計などでホール内の室温管理を行っている	テーマカラーのオレンジのソファが両ユニットに配置されゆったりと過ごせる場所となっている。ユニットの間にはテラスが設けられ、お茶を楽しみこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファスペースを作り、食堂とゆったりスペースの場のメリハリをつけている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や写真、好きな観葉植物等を置き、過ごしやすい環境作りをしている	ユニットで部屋の広さが違うが馴染みの人形や写真が持ち込まれていた。安全に戸が開閉出来るように部屋の入り口に手すりを新しく設置した。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活維持のため必要個所には目印をつけ工夫している。居室内にも手すりを設置しその方に合わせ安全に歩行できるように環境整備を行っている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290600034		
法人名	社会福祉法人 いわみ福祉会		
事業所名	グループホーム モモ 2番街		
所在地	江津市敬川町1230-1		
自己評価作成日	平成27年10月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/32/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3290600034-00&PrefCd=32&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社応援団		
所在地	島根県浜田市相生町3948-2相生塚田ビル1階103号		
訪問調査日	平成27年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念に基づき、グループホーム内で理念を掲げ職員間で共有している。職員会議や研修などで振り返りの場を設け実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(文化祭、秋祭りなど)に積極的に参加したり、当事業所での夕涼み会には、地域の方々にも模擬店などの参加をお願いし、交流を図っている。また、園児との交流も行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトになっている職員が、市役所や学校等へ出かけ、研修会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度事業所内において開催し、当事業所での行事、日常についての報告をしている。意見交換の場も設け、サービスの質の向上に繋げる様にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方に運営推進会議のメンバーになって頂き、サービスの実情や取り組み等を理解して頂く等、協力関係を構築している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会が中心となり定期的に会議や研修の場において対策等を周知すると共に、事前に意識調査を行い、よりよいケアの実現に向けた取り組みをしている。特に、転倒リスクの高い利用者や帰宅願望の強い利用者に対しては見守りを重視し、援助を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会が中心となり、研修や身体的虐待のみならず、言葉などによる虐待など危険性が見逃されない様不適切ケア防止への目標を掲げ、注意を払っている。また、外部の研修にて職員が学び気付ける機会が持てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修で学んだ事を事業所内で研修報告し、職員全員が権利擁護について学ぶ事ができるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者規約書、個人情報同意書、重要事項説明書、重度化対応・終末期ケアについての指針等の説明を書面及び口頭にて行い、了承を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族面会時に声掛けを行い、要望・意見があれば上司に報告し、話し合い改善している。家族代表者に運営推進会議へ参加して頂いたり、広報誌等を作成、配布し、報告や意見を頂く場も設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の各事業所での会議、全体会議を設け職員の意見や提案を聞き、討議している。また、代表者会議にて意見を報告し反映指せている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己申告制度を法人全体の取り組みとして導入している。また、定期的に職員に対する面接を実施し、職員の声をくみ上げ、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の目標や研修希望をアンケート調査し、外部、内部研修計画を策定・実施している。職員の質の向上及び事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や他施設見学を通じて他施設の職員との交流等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人としっかりコミュニケーションを取り、不安や要望を把握するよう心掛けている。また、本人の表情や行動からもくみ取れるよう配慮し、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には担当者以外でも家族と情報交換を行いながら、家族の思いや要望に対して出来る限りの対応をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時の本人や家族の要望に合わせたサービスがなるべく利用できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	どこまで出来るか、何が出来ないかを知り、出来る事を役割りとして行って頂いている。また、人生の先輩としていろいろな事を教えて頂きながら良い関係が築けるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族との関係を大切にし、担当を中心に電話連絡や面会時のコミュニケーションを密に行っている。また、面会の他、受診の付き添いや行事参加等を通して家族との繋がりが途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでもどなたにでも自由に面会に来て頂いたり、外出して頂いたりしている。また、いつでも来所して頂けるよう環境づくり、雰囲気作りをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を把握し、皆さんが楽しく自分の力を発揮できるように職員が間に入りながら良い関わりを持てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の要望に応じて、他サービスの紹介等相談に応じている。また、他サービスにおいても本人やご家族が安心して受け入れられるようしっかりとした情報提供に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人やご家族の思いをしっかりと聴き、その方に合った生活が出来るよう支援している。また、表情・行動から本人の思いをくみ取り、職員間で確認しながら日頃の支援に繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用しながら、本人やご家族に詳しくお話を聞き、馴染みの暮らしができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別記録を詳細に記録し、その日の気づきをあげている。また、状態に合わせて別紙記録も用いながら状態の把握に努めている。会話や行動から本人の出来る力、心身状態を見極めるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族としっかりと話し合い、意見をうかがうようにしている。また、毎週のミーティングなどで職員同士意見を出し合い、変化等あれば見直しをし、実状にそった介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌や引継ぎノートから、職員間でしっかり情報共有し、統一したケアへと反映させている。また、個別記録にその日の気づきや工夫を各勤務職員が記入し、全職員が目を通している。ケア目標も個別記録に掲げており、ミーティング等で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態の変化や家族の希望など、その時の意向に留意し、柔軟に対応・支援していけるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夕涼み会では地域の方に参加して頂く等活動への協力体制ができています。また、地域の婦人会の方との交流の場もある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を聞きながら受診対応をしている。大半の方が2週間に1回の協力医院の往診を受けている。その他の方、専門科への受診についてはご家族の協力を頂いたり、職員の付き添いで受診対応している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の体調不良時には看護師に連絡・相談し対応している。また、2週間に一度の往診の際、看護師を通して協力医へ情報伝達ができる仕組み作りを行っている。24時間体制での医師への相談・対応を実施している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者やご家族への情報交換・相談を密にし、入退院がスムーズに行われるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、ご家族と話し合い、意向に応じて事業所でできることを支援するように努めている。状態により、ご家族や医療機関への相談をし、連携を取りながら対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	園内研修などで救命処置等の勉強会を実施し、全職員が急変や事故に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	様々な状況を考慮した避難訓練を実施し、対応できるよう訓練している。また、地域の方々にも運営推進会議を通して協力をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手を尊重し、敬うように心掛け、ゆっくりと その人だけの時間をとれるような体制をと っている。本人のできる事が継続できるよう支 援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	選択肢を設定した問いかけを行い、決定さ れる時間を待つようにしている。 本人の意向を伺うような声掛けをし、自己決 定が出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	個別記録やセンター方式から、本人が今ど うしたいのかを把握し、その日のご本人の ペースや希望に合った生活支援に努めてい る。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	衣類は自分で選べるようにしている。選べな い方には、バランスを考えて服を着ていただ いている。行きつけの美容院があれば、馴 染みの関係を大切に、継続して行ってい ただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	嗜好を聞き、取り入れたり、旬の食材を使用 し提供している。メニューの話題も取り入れ コミュニケーションを取っている。 また、野菜の下準備、片づけ等できる範囲 で参加して頂けるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	食事量や水分量の記録を行い、利用者の 状態を把握している。カロリー摂取量や水分 量が少ない方には、その人に合った捕食を 用意し、提供している。また、刻み食等個人 に合った食事形態を取り入れ提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	毎食後に口腔ケアを実施している。痛み等 異常がないか確認し、口腔状態の把握に努 めている。また、義歯の方には夜間洗浄剤 を使用して清潔を保てるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄をして頂けるようにしている。また、夜間紙パンツ使用されている方でも日中はなるべく布パンツを使用し、トイレにて排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを行い、必要に応じて薬を内服して頂いている。また、ヨーグルトや牛乳、バナナを提供している。散歩や体操を行い、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	希望の時間をお聞きし、入浴して頂いている。ご本人のペースで、自分で出来る所はして頂いて、出来ない所は介助、見守りをして安心、安全に入浴して頂いている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後には午睡できるようにしている。また、本人の状況・状態に合わせ対応している。居室の温度や明かりの調整等をし気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報に目を通し、変更時には特に状態観察(変化)している。個人ファイルがあり、目を通している。 服薬時には日付や薬の確認を行ってから、飲み込まれるまでしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人一人に合った役割(掃除、調理、洗濯)を一緒に行う事で毎日の生活に張り合いを持って頂ける様支援している。外出やレクリエーション等で気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良い日には散歩へ行ったり、買い物やドライブ等の外出支援を行っている。家族にも協力して頂き出来る限り外出の機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金として管理させて頂いているが、本人の希望に応じてその都度対応している。外出の時はこづかい程度の支払いは職員立ち会いで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望時には電話をかけたたり、手紙を投函したり援助している。また、本人持ちの携帯電話を使用される方については、居室にて使用して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた作品や花を飾っている。心地よく落ち着いて過ごして頂けるよう掃除、明るさ、音、温度管理をこまめに行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士と一緒に過ごしたり、ソファや畳等で、本人のその時の気持ちに合った過ごし方が出来る様支援している。また、一人になれる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具等を持って来て頂き、過ごしやすい環境づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自分の部屋がわかるよう目印をつけたり、居室内の配置を工夫している。また、使いやすい器具を使用したり、手すり等適切な場所に設置し、安全で自立した生活が送れるよう配慮している。		